

全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ（概要）

香美町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 令和4年4月19日（火）

2 本町の状況

◆<教科に関する調査の状況>

【調査結果の分析の基準】

Table with 2 columns: 全国平均の回答率を基準とした時の割合, 全国(公立)と兵庫県(公立)と比較した同程度

① 小学校に関する状況

Table showing subject results for elementary school compared to national and Hyogo prefecture averages.

② 中学校に関する状況

Table showing subject results for middle school compared to national and Hyogo prefecture averages.

③ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】※分析等の詳細は、本体冊子参照

小学校

(国語)

- ◎ 話し言葉と書き言葉との違いを理解したり、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えたりすることはできている。
▼ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けることなど、記述式で解答を求める問いに課題がある。(算数)
▼ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することなどに課題がある。(理科)
▼ 実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述することなどに課題がある。

中学校

(国語)

- ◎ 学習指導要領の領域別では「思考力、判断力、表現力等」における「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の「問い」は概ねできている。
▼ 自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くこと、行書の特徴を理解することに課題がある。(数学)
◎ 学習指導要領の領域別では、「数と式」、「データの活用」の「問い」は概ねできている。
▼ 数学的な結果を事象に即して解釈し、数学的に説明したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりするなど、記述して答えることに課題がある。(理科)
◎ 実験の計画における条件の制御などはできている。
▼ 探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題がある。

(3) 調査実施校数及び人数

- ・小学校6年生：10校 120人
・中学校3年生：3校 120人

(4) 調査内容

- ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕
令和元年度から、これまでの主として「知識」に関する問題及び「活用」に関する問題が一体的に出題されることとなった。
イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
(7) 児童生徒に対する調査
(4) 学校に対する調査

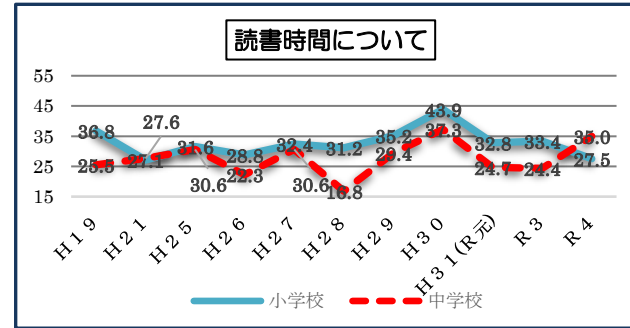
※新型コロナウイルス感染症による影響に関わる問いは、学校質問紙のみとなり、両質問紙とも理科に関する問いが新たに盛り込まれた。

④ 教科における領域や項目の状況(良好な部分を中心に 一部抜粋)

- 小学校 国語
・話し言葉と書き言葉との違いを理解すること(大問1-1)…【知識及び技能】
小学校 算数
・被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること。(大問1-1)【数と計算】
小学校 理科
・観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つこと。(大問4-(1)【地球】)
中学校 国語
・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと。(大問2-1)…【知識及び技能】
中学校 数学
・簡単な連立二元一次方程式を解くこと。(大問2)…【数と式】
中学校 理科
・分子モデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すこと。(大問3-(1))…【粒子】

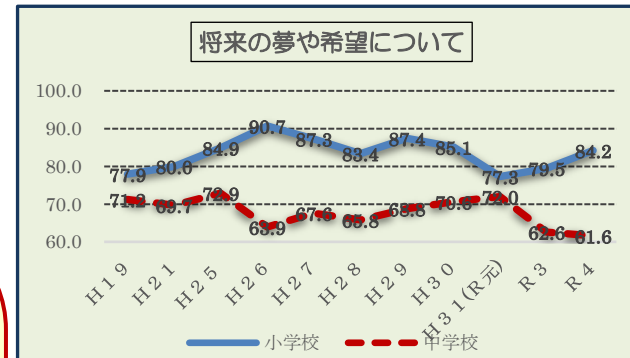
<児童生徒質問紙に関する調査の状況>

①【読書活動について】(「3つの町民運動」関連) [単位:%、以下同様]



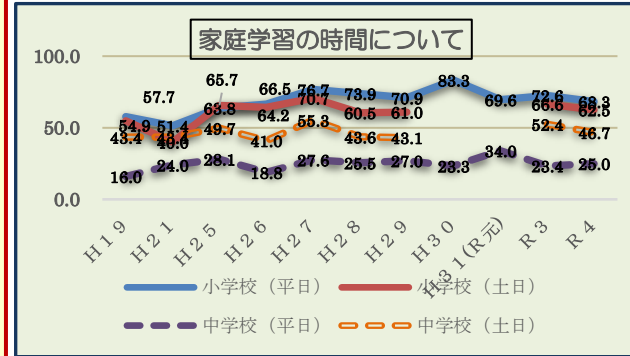
- 児童は昨年度と比較して減少したが、生徒は増加に転じた。
○ 小学校6年生時(令和元年度)には「30分以上読書する」と回答した割合が32.8%であったものが、中学校3年生時には、35.0%にまでやや増加している。
○ 児童は1日当たりの読書時間と各教科の平均正答率との間に有意な相関は見られなかったが、生徒の国語においては、ゆるやかな相関関係が見られた。(クロス集計ページ参照)
○ 今後とも、「3つの町民運動」における「読書」の取組を着実に進めていくことが求められる。

②【将来の夢や目標について】(キャリア教育推進関連)



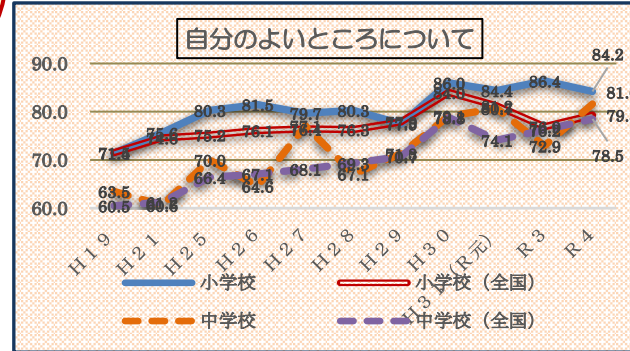
- 今年度は小学校は微増し、やや回復しているが、中学校はやや減少している。
○ 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%前後で推移している。一方、生徒では60%前後で推移している。
○ 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

③【家庭学習について】(キャリア教育推進関連)



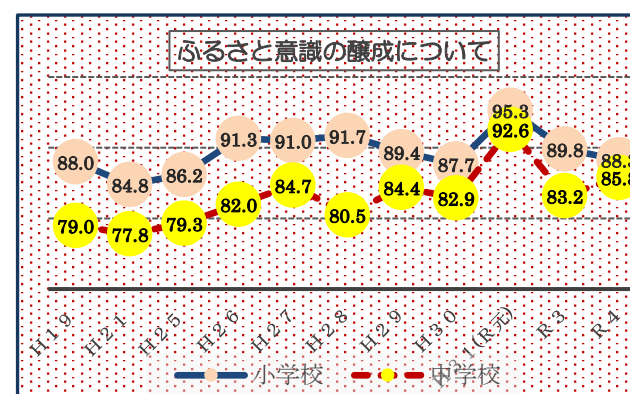
- 今年度、平日における児童の家庭学習の時間は、やや減少している。一方で、平日の生徒の学習時間は微増している。
○ 生徒では、平日の家庭学習の時間が「2時間以上」と回答している割合が、依然として20%台のままである。「家庭学習のきまり」などによる啓発を通じて、家庭学習の習慣化の取組を着実に進めていく必要がある。
○ 昨年度から土曜日、日曜日の調査が復活した。児童生徒とも昨年度よりもやや減少している。
○ 今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、「家庭学習」の重要性を児童生徒に認識させるとともに、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

④【自己有用感について】



- 児童、生徒とも全国と比較して自己有用感を抱いている割合は高い。
○ 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
○ 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
○ 学力とのクロス集計では、いずれの教科においても、児童は有意な相関関係が見られた。(クロス集計ページ参照)

⑤【ふるさと意識の醸成について】(「ふるさと教育」推進関連)



- これまで同様に、児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高いが、児童の方が生徒よりも高く推移している。
○ 今年度は、昨年度と比較して児童はやや低下しているが、生徒はやや増加しており、長いスパンでみると高い割合で推移しており、小・中学校とも、「ふるさと教育」の取組成果が浸透しつつあることがうかがえる。
○ 学力とのクロス集計では、児童では国語において、生徒では国語、数学において、やや有意な相関関係が見られた。(クロス集計ページ参照)



◆<児童生徒質問紙と学力のクロス分析から>

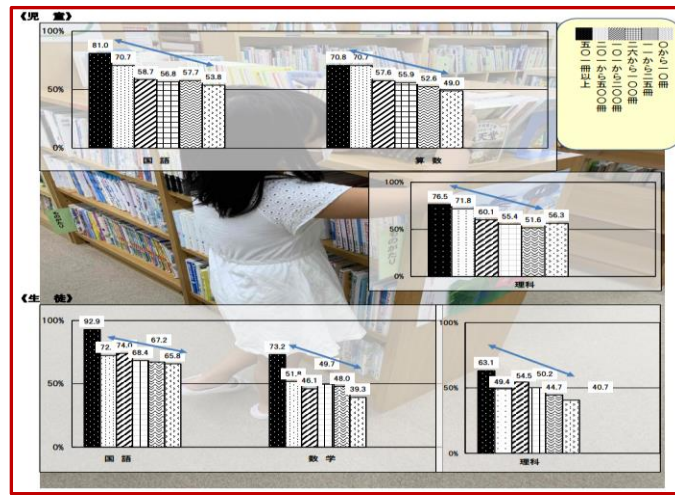
<「家庭の蔵書数」と平均正答率の状況について>

【質問番号】 小(24)中(24)

【質問事項】 あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)

【分析及び考察】

○ 児童生徒ともに、家庭の蔵書数とそれぞれの教科の平均正答率との間に、ゆるやかな相関関係が見られる。特に、生徒においては、蔵書数501冊以上と回答している生徒の平均正答率は、国語、数学、理科ともきわめて高い。



<「ほめる指導」と平均正答率の状況について>

【質問番号】 小(8)、中(8)

【質問事項】 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

【分析及び考察】

○ 児童は、いずれの教科においても、ほめ認められる指導と平均正答率の間に相関関係が見られる。
○ 生徒については、国語、数学において逆の相関関係が見られる。理科については、特に有意な相関関係は見られない。
○ 今後とも脳科学の知見を生かし、「ほめること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の内発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

★★PC・タブレットなどのICT機器の活用等について★★

質問番号	質問事項
小(59)、中(59)	あなたの学校では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	4校	3校	3校	0校	0校
中学校	0校	3校	0校	0校	0校

【分析及び考察】

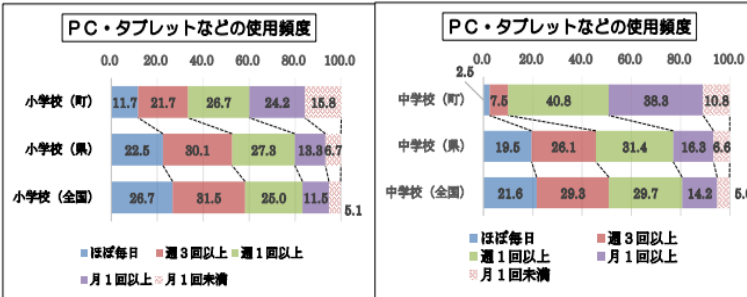
○ PC・タブレットの使用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
○ ICT機器の有用性については、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して上回っており、有用性の認識度は高い。
○ 学校質問紙による学校側の回答と児童生徒質問紙による回答とを比較すると、その活用についての認識に差が見られる。
○ 生徒質問紙と学力のクロス分析において、SNSや動画視聴時間とそれぞれの教科の平均正答率との間には有意な相関関係は見られないが、いずれの教科においても携帯電話やスマートフォンを所持していないと回答しているほうが平均正答率が高い傾向にある。(本体冊子参照)
○ 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの積極的な活用の在り方について研鑽を積むことが求められる。



【児童生徒質問紙】

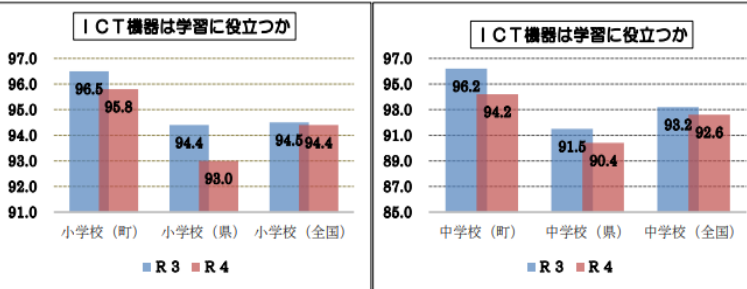
【質問番号】 小(32)、中(32)

【質問事項】 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



【質問番号】 小(36)、中(36)

【質問事項】 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますか。



3 今後の取組の方向性について

学校では

コロナ禍で蓄積された新たな知見などを、これからの「学び」に生かそう!

魅力ある授業づくりを!

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し 授業の質的転換を図る～

児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学習環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態や教室での事実に基づき、学力や学習状況の把握に基づき、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

指導力を高め合う組織づくりと

学びの連続性のある取組を!

～小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質の高まりを図る～

子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、調査結果等を全職員や校種間で共有し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに、系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

小規模校ならではの特色を生かした取組を!

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」の不断の見直し

を図り、取組の質的向上を図る～

小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのために、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

<授業実践のポイント>

- 国語科を要としつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- 全児童生徒に配備されたタブレットなどの活用や、体験的に学ぶ活動などを積極的に取り入れる。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にす。
- 個人カルテの活用などにより、一人もつまずきを見逃さない個別指導を推進する。等

<実践のポイント>

- 若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを行う。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。等

<実践のポイント>

- オンラインによる研修なども考慮しつつ、事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- これまでに蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

家庭、地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点 地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう!

コロナ禍の臨時休業中、多くの子どもたちは勉強について不安を感じながらも家庭で規則正しい生活に努めていました。子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率が高い傾向にあります。

さらに、家庭の蔵書数が多いほど平均正答率が高いことも報告されています。

また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」、「学校版教育環境会議」など、様々な機会や場を通じて、学校と家庭・地域がいつしよになって子どもたちの未来を考え、共に育んでいきましょう。

<実践のポイント>

- 規律ある生活(早寝、早起き、朝ごはん等)、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化(「ながら勉強ゼロ」など)
- 家庭で読書に親しむ環境づくり(「親子で読書」、「新聞を読むこと」の習慣化など)
- スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

行政では

学校・家庭・地域への支援を!

教育委員会では、「ふるさと香美を愛し、夢や志を抱き、共に未来を切り拓く人づくり」をめざし、「第2期香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。

そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
- ホームページ、町広報誌などによる情報提供
- 各種事業の実施(ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、「町じゅう図書館」活動など)
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

◆問題文や各質問紙の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>